

令和6年度真岡高校定時制課程学校評価における自己評価

I 本年度の重点目標及びその達成に向けた具体的な取組

＜本年度の重点目標＞

学校生活の様々な場面を通して、以下の8つの力を育成しつつ、後述の重点目標に取り組む。

- ①【傾聴力】 他者の意見を謙虚に聴く力を身につける。
- ②【分析力】 物事を客観的に分析する力を身につける。
- ③【思考力】 物事に対して、「何故か」を考える力を身につける。
- ④【発信力】 自分の考えを、わかりやすく他者に伝える力を身につける。
- ⑤【想像力】 未来（結果）を考え、想像する力を身につける。
- ⑥【創造力】 課題を解決する方法を創造する力を身につける。
- ⑦【行動力】 自身の考えに基づき、他者と協力して行動する力を身につける。
- ⑧【自己肯定力】 達成感を積み重ねることで、自信をつける。

◇学校生活における様々な教育機会です「至誠」を意識させ、取り組ませることで、基本精神に則り行動できる人材の育成を目指す。

◇学習成果を活用する場面を社会と捉え、生徒の意識を広く実社会に向けさせ、将来を見据えて学習に取り組む人材の育成を目指す。

＜評価項目（重点目標の達成に向けた具体的な取組）＞

- ア 生徒の健全な成長を促す生徒指導・教育相談の充実
- イ 生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の改善
- ウ 生徒の主体的な進路選択を促す進路指導・キャリア教育の充実
- エ 生徒の自己有用感や自己肯定感を高める特別活動等の充実・活性化
- オ 学校と家庭・保護者等との連携・協力の強化

II 自己評価

＜評価項目（具体的な取組）について＞

以下、数値(%)は学校評価アンケートの結果で肯定的な意見の割合

ア「生徒の健全な成長を促す生徒指導・教育相談の充実」について

月例の教育相談情報交換会を通して、生徒についての情報の把握と全職員での共有に努めた。また、年5回の個人面談や、日々の言葉かけ、教育相談等を通して、生徒理解、生徒の心のケアに努めるとともに、いじめの未然防止を図ったり、生徒が自己理解を深めて日常生活を改善したり、将来の目標を明確化したりできるよう指導、支援を行った。

学校評価アンケートでは、質問10については（生徒：91%、保護者：89%）で例年通り、質問11については（生徒：91%、保護者：62%）昨年度比で若干の低下、質問12については（生徒：95%、保護者：77%）生徒の回答では大きな伸びが見られ、質問13については（生徒：88%、保護者：85%）若干の伸び、質問14については（生徒：98%、保護者：85%）生徒保護者ともに高評価、質問16については（生徒：95%、保護者：89%）概ね例年通りであった。

今後とも、生徒一人一人の確実な成長を促す教育活動の充実に努めたい。

イ「生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の改善」について

基礎学力の定着を図るため、適切な教材の選定や分かりやすい教材の作成に努めた。また、グルー

プワークの場면을創出し、発表の機会や、作文、論述など自分の考えをまとめて表現する機会を設けた。さらに、個別に最適な目標を設定させ、振り返りによる学習のフィードバックも重視した。タブレット等のICTの活用などにも努め、総合的な探究の時間において、興味関心に応じたグループでの探究活動を行った。

学習指導についてのアンケートでは、質問2については（生徒：95％、保護者：85％）生徒からの評価は例年高いものであったが今回保護者の回答で若干の伸びがみられ、質問4については（生徒：95％、保護者：69％）生徒からの評価が大きく伸びたものの保護者からの評価は例年並みであった。

生徒の興味関心を喚起しながら、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の改善をさらに推進し、保護者への発信も課題と捉えたい。

ウ「生徒の主体的な進路選択を促す進路指導・キャリア教育の充実」について

外部講師による進路ガイダンスの複数回開催や会社訪問・学校見学の早期実施、ハローワークとの密接な連携などを通して、生徒一人ひとりの目標の明確化と生徒の特性に応じた進路指導を推進した。また、志望理由書や小論文、面接等の個別指導についても、計画的に行うことができた。

進路指導についてのアンケートでは、質問3について（生徒：91％、保護者：81％）、質問5について（生徒：95％、保護者：85％）、質問6について（生徒：98％、保護者：73％）、質問7について（生徒：91％、保護者：77％）であり、全体的に高評価が得られている。これは例年の傾向であるが、今後も高水準を維持していくための努力が必要である。

エ「生徒の自己有用感や自己肯定感を高める特別活動等の充実・活性化」について

本校は学校行事を大切な教育課程の要と捉え、オーソドックスな学校行事を網羅している。コロナウイルス感染症の影響も影を潜め、コロナ以前に実施していた行事をすべて実施することができている。

アンケートでは、質問8については（生徒：91％、保護者：81％）、質問9については（生徒：84％、保護者：62％）であり、生徒の評価が年々向上している。行事に参加する生徒の様子を見ても、生徒が主体的に参加する様子が見て取れる。

オ「学校と家庭・保護者との連携・協力の強化」について

P T A総会や夏季休業中の保護者面談などを通して、生徒への指導・支援について保護者への理解を図るとともに、白布城だよりなどを通して、情報発信に努めた。今後も保護者との連携・協力を深めるために更なる情報発信に努めたい。

＜本年度の重点目標について＞

本年度は、上記5つの具体的な取組を中心に様々な教育活動を通して、8つの力の育成および重点目標の達成に向けて取り組んできたところであり、一人一人の生徒に様々な成長が見られた。本校定時制に対する評価も「入学して良かった(生 95%)」、「入学させて良かった(保 92%)」と高い評価が得られた。「生徒が自立できるよう人間的成長を促す取り組みに力を注いでいる(生 95%、保 89%)」の肯定的評価がさらに高くなるよう、今後とも、教育活動に努めていきたい。